丸内台

第３４号
発行
小松同窓会本部
〒923－8646
小松市丸内町二ノ丸15
石川県立小松高等学校内
同窓会報編集委員会
TEL･FAX (0761)21-6330
発行責任者　宮西　勉夫

教育活動の理想郷

教頭　竹内　千恵子

２０数年前、教科の集まりがあって初めて小松高校を訪れました。暑い夏の午後、駐車場で車から降りると、青々と木々が生い茂り、後方には趣のある校舎が建ち、窓からは女子生徒の歌声とピアノの美しい音色が聞こえ、まるで別世界に迷い込んだような印象を持ったことを今でも鮮明に覚えています。以来あの映画のようなワンシーンを忘れることができず、平和で穏やかな、静かで学究的な雰囲気が学校のあるべき姿のような気がしてなりません。

縁あってその小松高校に赴任し、今年で６年目になります。この５年間は、校舎の改築２期工事が進み、石川県からは「いしかわスーパーハイスクール」に、文部科学省からは「スーパーサイエンスハイスクール」に指定され、ますます本校に期待が高まる中、「社会を担うリーダーの育成」という使命のもと、学校長はじめ多くの教職員と共に学校改善に努めてまいりました。その間、同窓会の皆さまや地域の方々には、多大なご支援、ご協力を頂きましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、今年度は「自主自律、学習や部活動に主体的に取り組む態度の育成」を大きなテーマとして掲げ、すべての教育活動を展開しております。このテーマは何も新しいことではなく、本校の３つの教育目標の１つであり、これまでも継承されてきたことではありますが、生徒たちの気質や社会のニーズが変化していくなかで、改めて原点に返り、「本校の使命を確実に果たしていく」という学校長の強い思いをうけ、全教職員一丸となって取り組むことに致しました。「良き伝統、小松スピリット」など、継承すべきものは継承し、改善が求められるものには最善の改善策を探る、県都にはない独自の学校運営を目指し、生徒たちの持っている才能を大きく育てていきたいと考えております。

具体的には、習熟度別授業、少人数授業を展開し、確かな学力を定着させ、主体的な学習や進路志望の確立に繋げていきます。読解力・思考力・表現力の育成に繋がる質の高い授業へと改善を図り、学力を最大限に伸ばす指導システム「小松メソッド」の構築を図ります。「いしかわスーパーハイスクール」「スーパーサイエンスハイスクール」の取組を一層充実させ、生徒の自己実現を支援していきます。また、生徒会活動、部活動、伝統行事である記念祭、ボート大会等を通して、規範意識を育成し、リーダーに求められる資質を培っていきます。その他にも多くの取組を計画しておりますので、どうかホームページをご覧ください。

優れた資質をもった生徒たち、発想が豊かで熱意に満ち溢れた教職員、恵まれた教育環境、保護者・地域の方々、そして同窓会の皆さま方に囲まれ、理想郷ともいえるこの小松高校で、教育活動に邁進できる喜びを実感しております。私自身、校歌にありますように、理想を高く輝かし明るい未来を作っていけるよう、これからも微力ではありますが、一心に努め励んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、小松同窓会の一層のご発展と同窓会の皆さまのますますのご清祥をご祈念申し上げます。

終の棲家は信州の高原

（長野県）　藻谷　淳子

夫の退職を機に、六五歳にして信州の高原に終の棲家をもとめ定住しました。信州の気候は様々で、日本海側に近く雪の多い地方、静岡県に接した温暖な地域、それらの中間に位置する標高の高い乾燥地帯と大まかに三つに分けられるようです。

今の住まいはその乾燥地帯で、標高八〇〇メートルほど。浅間山と蓼科山の中間に位置し、千曲川やその支流が長年かかり回りを削り取ったあげくに残された台地上にあり、近所の住人の多くは都会からの移住者です。一年中お天気が良く日当たりがいいので、お肌のためには良くありません。散歩と庭仕事でしっかり日焼けしました。

冬の夜中は外気温が零下一〇度以下になる日も多く、寒空に皓々と月や星が輝きます。寒さは厳しく、降る雪はわずかでも積ったらなかなか溶けません。そうなったらもう覚悟を決めて冬篭り。パソコンで「古典の会」のためにレジュメを書き溜め、余った時間はゆっくりと読書して過ごして、運動不足は村の温泉プールで解消です。

張り詰めていた池の氷がようやく溶けて遅い春が来ると、梅も桜も辛夷も、すべての春の花々が一度に花開き、素晴らしい眺めとなります。真っ青な空のもと、遠くの日本アルプスにはまだ真っ白な雪が輝いて、言葉に表せないほどの美しさです。散歩のついでに蕗の薹や蕨を、ついでに野の花もちょっと一輪挿しにと摘んだりします。

初夏には時折郭公も鳴き、野生の青山椒の実を見つけたら佃煮に。夏の夕方、気温が下がり涼しくなると、ヒグラシの声を聞きながら散歩です。たわわに実った道端の桑の実や庭の木苺は、篭に摘んできてジャムにします。秋は散歩道に沿って野生の秋の七草が咲き乱れますが、寒冷地のため残念ながら藤袴は咲かず、よく似た同種の沢ヒヨドリがそれに代わります。また、食いしん坊の私は道端に落ちた信濃胡桃や芝栗を見逃しません。こんな一年を自然の恵みを満喫しながら送っています。

前述の「古典の会」は日本の古典文学を読む会です。四年前まで住んでいた千葉県浦安市の市立図書館を会場に開いていますが、易しい『平家物語』から入り、時代を前後しながら次々と読み進めてもう二〇年。今年の夏でついに『源氏物語』宇治十帖を読了しました。月に一度朝九時半に家を出て長野新幹線で上京し、三時間の古典講読をこなすので少し疲れはしますが、和やかで楽しい会です。

信州の自然に囲まれ古典文学をひもとくのが、今の私の生きがいとなっています。

（高校９回）

浅間山を望む

雪の我が家

平成18年度　小松同窓会　会計決算書

収入の部　単位：円

科目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘要
1 入会金	3,140,000	3,140,000	0	17年度卒業生314人×10,000円
2 繰越金	1,117,613	1,117,613	0	
3 諸収入	142,387	190,698	48,311	樹木管理費、総会・新年会残金、利子
計	4,400,000	4,438,311	48,311	

支出の部　単位：円

科目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(A-B)	摘要
1 総会費	200,000	74,940	125,060	総会費用、新年会案内等
2 卒業記念品	220,000	220,000	0	卒業記念メダル
3 名簿作成費	120,000	68,040	51,960	タックシール
4 通信事務費	250,000	208,625	41,375	ホームスクールカミングデー案内、インターネット保守、理事会案内等
5 渉外費	400,000	225,662	174,338	インターネット使用料、電話料、新聞広告等
6 パソコン管理費	1,450,000	1,254,350	195,650	事務局賃金等
7 会報事業費	650,000	604,620	45,380	会報「天守台」発行、郵送料
8 記念館事業費	150,000	89,572	60,428	ホームスクールカミングデー謝金
9 会合事業費	250,000	249,220	780	理事会、幹事会、他支部総会費等
10 一般事業費	450,000	411,583	38,417	ホームスクールカミングデー経費、樹木防除
11 雑費	110,000	108,370	1,630	コピー用紙等
12 予備費	150,000	149,510	490	マフラー型タオル、香典等
計	4,400,000	3,664,492	735,508	
次年度繰越額　収入額－支出額			783,819	

「卒業後六十年、故郷の食事会」

（埼玉県）中川 外雄

「小松に帰る予定があれば知らせてくれ、食事でもどうだ」古里在住の皆さんの幹事役、安井健次郎さんからの度々のお誘い。金沢での用事ができたので、前後の日取りで食事会を計画していただく。高齢のため病気療養中の方も多いという事だが、「七～八人は集まる予定だ」と、話は纏まる。昨今話題の団塊の世代の皆さんがお生まれの頃、昭和二十三年春、卒業。今年はうれしい喜寿の年、暫く振りの老人達の集まりだ。

平成十四年のお旅祭りの頃、ホテルサンルート小松で同窓会を開き四十人余集まったが、それ以来開催が難しくなってきている。今年もお旅祭りが始まる前夜、「五月十日午後六時から」と決まる。さて、関東から私一人では勿体無いと、東京在住の本谷勇さんを誘ってみたら快諾を得て、二人で参加することになる。

当日は金沢での所用を済ませ、昼過ぎ、北鉄野町駅から加賀一宮へ、三十年振りぐらいだろうか、白山比咩神社で諸事万端に感謝の参拝。境内の大木の数々に改めて驚く。夕刻近く小松に着く。その頃、風雨激しく、外出には厄介な天候になってきた。集まり具合が気になる。

会場は、在郷の諸兄が定例的にお集まりの芦城中学校近くの割烹「磯」。打田直哉さんが親しくしておられ、家庭的な雰囲気で嬉しい。五年ぶりの顔、顔。乾杯、古里の酒肴に舌鼓、在関東や在郷の様子など夫々が報告を始めるが、話題は尽きずなかなか先には進まない。話に花が咲き、賑わいの杯が旨い。体調を崩された方々に会えないのが寂しいし、先立たれた諸兄のことを思うと慙愧の念に耐えない。改めてご冥福をお祈りする。

出席者は、写真上段右から川畑隆、黒本儀治、中川外雄、本谷勇、土山邦夫、石高寛、下段右より柴田一行、宮下修一、安井健次郎、打田直哉、杖村邦夫。

翌朝、ホテルを出てから白山市のＪＲ松任駅で下車、中川一政記念美術館、千代女の里俳句館など駅周辺の充実した観光施設を見学し、古里の一層の発展を念願しながら、数々の新たな思い出を胸に帰途の列車に乗りました。

（中学46回）

高校９回卒(三二会) 同窓会 卒業50周年記念大会が開催されます。

８月19日(日)　午後１時
「タイムスリップIN階段教室」
一限目　「故郷の文化を考える」講師　山本正臣
二限目　「日本の古典に学ぶ」　講師　藻谷淳子

８月19日(日)　午後６時
「記念パーティIN喜多八」

８月20日(月)　午前９時
「白峰の名刹林西寺を訪ねる」バスの旅

８月20日(月)　午前10時30分
三二会 50周年記念ゴルフコンペ
於・ツイン・フィールズＧＣ

平成18年度 小松同窓会 運営基金特別会計現在高　単位：円

繰越金	収入額	支出額	年度末現在高	摘　要
6,674,545	3,175	100,000	6,577,720	韓国大田科学高校交流事業

平成18年度 小松同窓会 基本財産特別会計積立額　単位：円

北國銀行定期預金	15,000,000	石川県公募公債	1,000,000	新生銀行債権貯蓄期間満了(H18年5月)後、石川県公債・投信に移行
投資信託(北國銀行扱)	9,000,000	合　計	25,000,000	

平成18年度 小松同窓会 天守台編集委員会郵便振替受払額　単位：円

繰越額	受入額	払出額	差引残額	摘　要
925,830	5,000	70,295	860,535	会報「天守台」送料、18年度受入額 5,000円

同窓生を尋ねて

第４回

小松市教育長

吉田　洋三

（高校18回）

略　歴

昭和22年４月　小松市長田町生まれ
昭和38年４月　小松高等学校入学
昭和41年３月　小松高等学校卒業（高校18回）
昭和41年４月　早稲田大学教育学部入学
昭和45年３月　早稲田大学卒業
昭和45年４月　石川県立門前高等学校教諭
平成元年４月～13年３月　小松高等学校教諭
平成16年４月　石川県立小松明峰高等学校校長
平成19年４月　小松市教育長就任

問　６月議会中のお忙しい中、この４月に就任されたばかりの吉田小松市教育長を訪ねました。まず就任されましたその前後の感想からお聞きしたいと存じます。要請に即決でしたか、迷いましたか。

西村小松市長さんからお話があった時は、まさに「青天の霹靂」。１００％思いもかけなかったことでしたのでびっくりしました。しかし市長さんの教育に対する熱意に説得させられたのです。未知の世界であり、不安も迷いもありましたが運命を委ねる気持ちになりました。（なお、県の了解を得ることや、３月下旬の議会において議員の皆様のご同意を得なければなりませんでしたので、もちろん自分で決める筋合いのものではありません。）そして、着任してみると予想以上にハードであって、またその責任の重さを痛感しており、日々身の引き締まる思いがしているところです。

問　教育家吉田洋三と、書道家吉田畦鶴と、今まで以上に忙しくなりますね。

書道は私にとってのライフワークです。書道は継続してまいりたいです。私にとって、書道という創作活動は精神のジョギングです。ジョギングによって身体の健康にかけるぐらいのエネルギーを、精神の健康にも注いでもよいのではないかという思いです。そのうちに自分の学んだことを少しでも子供たちに伝えていけたらいいなあと思っているのですが…。

問　今までのように教育の現場、特に高校生と直接向き合ってこられたわけですが、小松市教育長ということで、行政マンとしての自信はいかがですか。

これまでは行政の経験がないので正直言って現時点では自信はありません。しかし市役所の教育委員会にはすばらしく有能な人材がそろっています。今は若葉マークのおぼつかない運転ですが、職員や市民の皆さんからのご支援やご忠告を肥やしにしながら、若葉が青葉になり、一回り大きな樹木に成長できますように精進したいという心境です。

問　今後は小中学生との対話が多くなると思いますが、自信とか、構想（ヴィジョン）はいかがですか。

高校生であろうと小・中学生であろうと基本的には変わりません。なお、教育委員会は、児童・生徒のみならず乳幼児から年配の方々に至るまで、すべての市民が対象となっていまして、小松市民全員と対話をしていかねばならないのです。しかし、誰であろうと、一人ひとり、基本的には「人間」としてのお付き合いをさせてもらうわけですから。３７年間の現場での経験知を活かして、真摯に取り組んでまいりたいと思います。

構想、ヴィジョンにつきましては、「国際的社会人を目指そう！」をスローガンに掲げたいと思っています。サブタイトルとして「Globally and Locally」と申し上げたい。私は常日ごろから生徒諸君には「夢」を持とう、どんな人になりたいか、

と語りかけてきました。それは一人ひとり顔が違うように、十人十色、百人百様ですが、万人に共通して申し上げたいのがこのスローガンなのです。「国際的」という言葉はいまさら申し上げるまでもありませんが、小松でしか通用しない人間、あるいは石川県、いや日本という狭い領域でしか通用しない人間であって欲しくはありません。世界中からも信頼される人間になろうという意味なのです。そのためにはグローバリー（世界的・全体的）な視点が必要です。地球的規模で判断し、歴史的な視点に立って、大局を踏まえて行動できることが望まれるのです。もちろん、夢や理想を追って遠くばかりを見つめていてもいけません。行動は是非ローカリー（地方的・局地的）でありたいものです。「灯台下暗し」になってはいけません。「脚下照顧」ということです。毎日の日常生活を、身近な人と人との人間関係を、そしてふるさとや日本の伝統文化を大切にすることを意味しているのです。

また、人間には「何か役に立ちたい。」という、心理学で言うところの根源的・潜在的ソール（魂）があるとのことです。そんな気持ちで仕事に専念したり、ボランティアー活動に打ち込んだりできたらいいなあと。「国際的社会人を目指そう」とされる市民の皆さんに、学びがいのある時間やチャンスや場所を支援・提供し、環境整備に尽力できたらいいなあと思っています。

問　市議会の議員先生の辛辣な攻勢はありましたか。うるさいと思いましたか。

確かに答弁しにくい質問はいくつかありましたが、いずれも子どもたちの将来を案じての鋭い、あるいは根源的な質問でしたので、真摯に受け止めてお答えしました。特に、「親学」（親の教育）についてどう思うか、という質問の返答には窮しました。学校だけではない、家庭と地域の教育力を高めるための支援をするのも教育委員会の務めなんだなあ、と改めて考えさせられました。

問　国のほうでは教育改革がどんどん進められ、その安倍内閣の政策にはいろいろと意見がありますが、これからの教育の方向性についてどう思いますか。

今の教育がいろいろな問題を抱えている点は否定しません。早い改革を望む国民と、それに意気込む政府の姿勢もわからないではない。いつの世も、社会の乱れの大きな原因は時代の変化にあるのではないでしょうか。その「流行」の部分をしっかり踏まえて対策を講じていかねばならないのではないかと思います。明治の改革期に、かの伊藤博文が、「急施紛更以って速効を求むべからず」（『教育議』所収）と述べています。あわてて教育を変え、速やかな効果を求めてはならない、という意味です。教育とは水がしみこむようにゆっくりと進めるべきものではないでしょうか。国民や現場の教師や有識者の声をじっくり聴いて、確固たる教育理念と計画性とを持って、日本百年の計を考えていかねばならないと思います。

そんな中、小松市では市民会議が「早寝、早起き、朝ごはん運動」を決議し、「大人が変われば子供も変わる」をスローガンに、市民運動として取り組もうとされていることに対しましてはたいへん感激しております。青少年の基本的な生活習慣の乱れを立て直す運動を、家庭や地域ぐるみで推進されようとしているのです。学校だけでなく、家庭や地域社会が一丸となって子供たちを育もう、という教育の理想がまさに実践されようとしているわけです。

「親の背を見て子は育つ」や、「大人の言うことは聴かないがすることはまねをする」とも言われます。「不易」な部分と新しい時代の「流行」の部分をしっかり見据えながら取り組んでいきたいものです。先般のドイツサミットでは、「環境問題」を世界のリーダーとなって取り組もうとしている日本です。国際化の中にあって、わが国のすばらしさをもっと世界に発信していけるような主体性と自立性のある国民でありたい、そんな人づくりを、と念じております。

どうもありがとうございました。ますますのご活躍を期待いたしております。

インタビューを終えて

杉永　信幸

所謂、団塊世代。小松高18回卒。570余名同期卒業生。小松高校校長の栖川君、寺井高校校長の井川君と小松明峰高校の吉田君が高校校長三羽烏。その中から平成元年から小松高校で教鞭を取り、母校100周年には高等学校の総務担当として小松同窓会と共に創立100周年記念事業の遂行に尽力した吉田洋三君がこの4月小松市教育長に就任しました。その吉田洋三君を小松市役所6階の小松市教育委員会教育長室へ訪ねました。チョット前まで高等学校校長の頃はいつでも会って話せた彼が、アポを取って二日後にたった十五分しか面会可能な時間が取れない忙しさの吉田洋三君の将来と彼の健康を考えずにはいられませんでした。

（高校18回）

● 第7回
ホームスクールカミングディ
のお知らせ

と　き：平成19年9月30日（日）
ところ：小松高校記念館階段教室　天守台下

今年は高校34回生が当番年度でお世話します。還暦の高校18回生と初老を迎える高校38回生が中心です。

三期生会が和倉で句会、ゴルフも楽しむ

（金沢市）大土 外男

高校三回卒の三期生会は6月6日、和倉温泉のホテル「のと楽」で67名（男子39名、女子28名）が参加して開いた。卒業して56年、初めての能登路開催に、各地から集まった同期生は学友の絆を深め、俳句やゴルフコンペを楽しんだ。和倉開催は地震の災禍に見舞われた能登復興への一助ともなった。

三期会は当初の4年毎開催を改め2年毎に。今回は小松、能美、金沢、能登空港から専用バスで和倉温泉へ向い、初夏の千里浜なぎさをドライブし、新緑の能登島が望まれる七尾湾岸の温泉の湯、岩風呂に浸り、久々の同期の集いは杯を重ね、会話も弾んだ。翌7日は七尾食祭市場などを観光した。

懇親会の席上、自由参加で俳句を募り、俳句界で活躍している同期の辰巳且、松井猛の両君が選者となって3句を選び、選者の2句を加えて披露、陶芸作品の賞を贈呈した。

選ばれた3句は「あの頃にもどりし瞳風薫る」（比良京子）「早苗のぶ緑みどりの能登路かな」（勝木満子）「家持の舟見ゆる時蜃気楼」（村田芙美子）。選者の辰巳さんは「ふるさとは風も優しき新樹晴」、松井さんは「行きずりの人に湯の香や夏の宵」を吟詠。

ゴルフコンペは7日、朱鷺の台カントリーで10名が参加してダブルペリアで競い会い、八代良雄君が優勝、同期の人間国宝吉田美統君から提供された釉裏金彩の花器を獲得した。2位は北岡英弥君、3位は坂本稔君であった。

（高校3回）

短歌

能登半島地震

（小松市）永井 正子

崩れたる土砂に濁れる能登の海
あかき潮（うしお）が寄せては返す

倒壊の寺より運び出す位牌
余震しづまる日中（ひなか）の道へ

（高校12回）

同窓会幹事を終えて

（小松市）和田 学

平成十八年度、私たち高校二十三回生は、小松同窓会幹事という役を仰せつかり、一年間活動させて頂きました。

私自身の母校との関わりも交えながら、振り返ってみたいと思います。

卒業して早二十七年、自身の高校時代を顧みると、余りにものんびりとしていて、人生に真剣に向き合っていなかったと思います。何となく、日常に流されていたという感が強かったです。それでも何とか地元の大学に進学した私を待っていたのは、二十歳のときの早すぎる母（高校8回）の死でした。

私はその時初めて、自身の安寧が家族によって守られていたことを痛感し、「生きる」ということに真剣に向き合うこととなったのです。

今日、人並みの自分が有るのは、二十歳以降積み重ねてきた経験と周囲の支えのお陰とは思いますが、何の苦労も感じなかった高校時代が今でも無性に懐かしく感じるのも事実なのです。

その後、就職したのは地元の電力会社でしたが、当時は原谷会長様、分校常務様、古田暉彦様（後に副社長）始め、社内には高校同窓の大先輩方が居られ、松高のつながりだけで大変温かく親しく接して頂き、新入社員の私は、とにかく感激したことを覚えております。皆さんが歌うのを聴いて、小松中学の校歌を憶えたのもこの時でした。

その後、私は地元に戻り、しばらくはガス事業の仕事等に多忙で、母校との接点の無い時期が続きましたが、昨年度、同窓会幹事ということで、再び母校を強く意識することとなりました。

地元に居る同級生に声かけをし、協力をお願いしたところ、皆さんに快諾を頂き本当に有難かったです。同じクラスになったことの無い人、全くと云って良いほど接点の無かった人でも、気付いたら横に居てお手伝い頂けるなど、多くの人達に支えて頂きました。

私達が担当した十八年度は、母校の新校舎完成の年にあたり、七月の総会終了後は、新校舎のお披露目を兼ねて先生方のご案内による見学会が行われ、参加者の皆様は、文武両道の進学校に相応しい充実した新校舎を、記念祝賀会場行きのバスの出発間際まで、熱心に見学されていました。

九月には、還暦と初老を迎えた卒業生を対象としたホームスクールカミングディの開催のをお手伝いしました。竹部先生（数学科）東先生（生物科）両先生のユーモア溢れる楽しい授業に皆さんが高校生に戻って、真摯に耳を傾けられていたのが印象に残っています。

授業終了後は、全員で天守台下に特設された懇親会場で親しく歓談しました。当日は、素晴らしい秋晴れで、風も心地よく、さわやかで気持ちの良い一日でした。

最後の年明けの新年会も多くの同級生のお陰で無事乗り切り、終了後の打ち上げでは充実した幸せな気分でした。

私達が幹事としてお手伝いしたのは、主に司会や受付でしたが、吉田会長様始め小松同窓会の先輩方、栖川校長先生始め教職員の皆様方の温かいご指導のお陰で、無事、役を全うすることが出来ました。誠に有難うございました。自身にとっても、三十三回の同級生にとっても、大変良い思い出となりました。

（高校33回）

小松同窓会新年会

平成19年1月26日、新年の恒例行事である小松同窓会新年会が、小松グランドホテルにて開催されました。

例年であれば大寒を少し過ぎたこの頃は吹雪舞う中行われることも珍しくない新年会ですが、今年は観測史上にも例を見ないほどの暖冬で、冬とは思えぬほどの陽光の温もりが残る中、二三六名の同窓生が旧交を温めあいました。

長沼弘喜副会長（高校十二回）が開会の言葉を述べた後、吉田歳嗣会長（高校九回）の挨拶が行われ、昨年七月一日に行われた新校舎竣工記念総会のもようの報告と、募金へのお礼を述べられました。

続いて栖川成人校長（高校十八回）から学校の近況報告の挨拶がありました。挨拶の中で校長は校舎新築に伴う同窓会の物心両面にわたる協力に対し感謝の言葉を述べられ、県下一の恵まれた学習環境の中、生徒・職員一丸となって素晴らしい学校づくりに取り組んでいること、前週に実施された大学入試センター試験の概況などを報告されました。

今年度の幹事学年である高校三十三回の篠岡沁一郎氏、新道千津子氏両名の息の合った司会進行のもと、いよいよ懇親会に移り、司会から指名を受けた三井淑朗氏（中学四十回）の乾杯発声により懇親会が開始されました。

会場内のあちこちで学生時代の思い出や近況報告などに話の花が咲き、和やかな談笑の声は終始絶えませんでした。

宴もたけなわとなった頃、幹事学年の引継式が行われました。今年度担当の高校三十三回から高校三十四回の皆さんへのバトンタッチが行われ、三十四回を代表して常任理事の山口和博氏が挨拶を述べられました。

懇親会のハイライトでもある恒例の校歌斉唱では小松中学、県女、小松高校の順に会場内割れんばかりの大合唱となりました。その後、中学四十一回の大西勉氏、永井宏明氏両名の音頭による万歳三唱で余韻の残る中閉会しました。

「舌鼓考」

（米子市）中川　喜代治

不遜なるも閑暇を持てあぐね、偶々辞書を玩ぶ中「したつづみ（舌鼓）」の一語に、セレンディピティの興を覚え一文を草しました。御笑覧の上一顧の価値ありとし、また余白あらば採録頂ければ幸甚に存知ます。

日本語は、二語が接合するとき、下接する語の語頭濁音（日本語には語頭濁音で始まる語はない）カ、サ、タ、ハ行音は、ガ、ザ、ダ、バ（パ）音に連濁する。但し、下接語に濁音節を含むときは連濁を生じない。例外は「したつづみ（舌鼓）」「はらつづみ（腹鼓）」である。同様語なので「したづつみ（舌鼓）」について論述する。

一般の国語辞典では、したつづみ（舌鼓）（名）①うまいものを飲み食いしたときに鳴らす舌の音。②不満や不快を表す時に鳴らす舌の音。▽「したづつみ」とも言う。―を打つ―舌打ち。「したづつみ」とするは誤り。或いは別項を立て「したづつみ（舌鼓）」は、「シタツヅミ」の転。などとしている。

日葡辞書（一六〇三）では「Tadamijiru Tade」というある草と味噌とを煮ないで作った冷やし汁」とある。西条流庖丁書「伝演味玄集」などにある「かきただみ（牡蠣蓼水）」「こただみ（海鼠蓼水）」という料理は「料理物語（寛永二十年刊）」には「こだたみは煮抜仕立て候」云々とし、牡蠣のない時は海鼠をそぼろ（糸つくり）に切り、酒で色と灰汁抜きをした上でよく叩いて柔らかくし、山葵のない時は「ただみ汁」で味付けするとしている。ここで気付く事は、「料理物語」では、「牡蠣」または「海鼠」に「ただみ」を不接した複合語を「かきだたみ」「こだたみ」としていることである。

豊太閤の馬印で有名な「千成瓢箪」の「成り瓢箪」は「ひさご」の一種で、果実が小振りで鈴なりに群生するもので、名義抄（一二四一）では「瓢、ナリビサコ」、和名抄（九三四）では「瓢、奈利比佐古（なりびさこ）」とし、梁塵秘抄（一一七九）には、「清太が造りし御園生に、苦瓜甘瓜紅南（あこだ）瓜、千々に枝させなりびさこ」とある。

これらを見ると「有濁音節語」が下接すると、音声的に連濁法則に忠実ならんとして、「つづみ」↓「したづつみ」、「ただみ」↓「こだたみ」、「ひさご」↓「なりびさこ」と語頭音を連濁させ、原有の濁音節を清音化する、或いは原有濁音節を語頭に移動させると言うべきでないだろうか。

全十三巻、五十万余語を立項すると誇る「日本国語大辞典・第二版（小学館）」が「したつづみ」↓「したづつみ」、「はらつづみ」↓「はらづつみ」は、「うわづつみ（上包み）」「こもづつみ（薦包み）」などの連濁形の類推したものと考えられるとしているが、その説によれば、「かきただみ」↓「かきだたみ」、「こただみ」↓「こだたみ」は、「あおだたみ」、「こただみ」↓「こだたみ」は「ふるだたみ（古畳）」の類推と言えそうだが、「なりひさご」↓「なりびさこ」は如何なる連濁語の類推と言うのか。

（中学36回）

過去5年間の合格状況（浪人を含む）

国立大学	2003	2004	2005	2006	2007
北海道大	4	6	5	12	6
東北大	2	6	8	4	9
筑波大	6	6	8	10	5
千葉大	5	6	1	7	2
東京大	2	2	4	1	1
東京外大	2	0	2	1	1
東京工大	2	2	0	1	0
お茶水大	1	3	0	1	1
一橋大	0	0	1	4	0
横浜国大	4	2	0	3	7
新潟大	3	7	3	2	1
富山大	19	17	12	28	28
金沢大	64	54	53	49	54
福井大	8	5	7	9	7
信州大	1	6	4	2	3
静岡大	8	4	6	4	4
名古屋大	5	6	4	5	3
名古屋工大	3	2	2	2	1
滋賀大	0	0	4	1	2
京都大	7	3	9	12	6
大阪大	9	12	11	9	13
大阪外大	2	2	0	4	1
奈良女大	2	1	1	4	5
神戸大	7	14	4	8	9
広島大	3	1	2	4	3
その他	33	32	25	22	25
国立大合計	202	199	176	209	197

公立大学	2003	2004	2005	2006	2007
首都大東京	3	3	1	4	3
金沢美工大	0	3	0	2	3
石川県立大			2	2	1
県立看護大	0	2	0	3	1
京都府大	1	0	1	2	1
大阪市大	2	0	0	4	4
大阪府大	0	4	5	7	11
その他	16	25	13	13	22
公立大合計	22	37	22	37	46
私立大学	**2003**	**2004**	**2005**	**2006**	**2007**
早稲田大	13	10	19	18	10
慶応大	8	5	13	7	3
明治大	8	14	5	11	9
立教大	1	1	5	1	5
法政大	15	9	5	8	5
中央大	17	9	21	9	9
日本大	19	13	13	3	13
青山学院大	9	4	10	8	6
東京理科大	17	12	7	8	13
上智大	6	2	2	3	1
同志社大	24	26	25	26	45
立命館大	71	88	63	74	77
関西学院大	12	15	31	30	16
関西大	19	33	30	48	44
京都産業大	29	15	21	17	3
その他	303	260	210	215	182
私立大合計	571	516	480	486	441

平成19年3月卒業生の主な進路先		
国公立大学	北海道大	6
	東北大	9
	筑波大	4
	千葉大	2
	東京大	1
	新潟大	1
	富山大	20
	金沢大	47
	福井大	3
	静岡大	2
	名古屋大	3
	京都大	4
	大阪大	11
	奈良女大	5
	神戸大	8
	広島大	2
	首都大東京	1
	石川県立大	1
	金沢美工大	3
	大阪市大	4
私立大学	早稲田大	4
	慶応大	1
	東京理大	2
	同志社大	8
	立命館大	11
	関学大	6
	関西大	5

今春の進路状況

平成一九年度入試では国立大学（特に旧帝大）で後期日程が廃止もしくは大幅削減という改革が本格化しました。しかし、依然として全国的に難関国公立大学への志望増加傾向が続いています。今春のセンター試験は平均点の大幅ダウンにより、安全志向が働き中堅校以下の倍率が極端に上がりました。しかし、これが即座に難関大学の易化にはつながらず、少数激戦の戦いだったといえましょう。一方、私立大学の方も難関・有名大学（特に大都市圏）に受験生が集まる結果となり、大きく二極化しました。

本校では三一三名の生徒がセンター試験に出願し、全員が受験しました。（受験率九九・七％）全国的には問題の難化が話題となり、本校でも文系は若干苦戦したものの、理系においては過去最高の結果がでました。皆が高い目標を最後まで掲げ後期日程まで粘り強く取り組み、その結果上記の表に示されるように国公立大学の合格者数が二四三名（現役生二一八名）と昨年度に引き続き最高の数を得ました。旧帝大では東北大・大阪大、私大では同志社大で過去五年間で最多の合格者を出しました。

本校も全国的傾向と同様に難関大の志望者が数年来急激に増えております。総体・総文を終えた現三年生も以前に増して高い目標を掲げ本格的な受験勉強に入りました。彼らも、暗くなるまで教室に残り机に向かっていた受験生としての先輩の姿を目に焼き付けています。きっと先輩に負けじと「自主自律」の精神で自己実現のために最後まで粘り抜いてくれるものと信じております。

進路指導課

編集室だより

暑中お見舞い申し上げます。

小松同窓会は新校舎改築記念式典等も終え、落ち着いた年度になりました。吉田会長も3期6年間を務められ、この度の役員改選で辞意を固められておられたのですが、役員の方々から強く慰留されまして、あと1期2年の続投となりました。編集子も退陣する予定でしたが、あと2年会長と同行することに致しました。どうぞよろしくお願いします。

つきましては、お願いがございます。

各期毎に同窓会をお開きのことと存じますが、是非そのニュースを知らせていただけませんか。メール、FAXで結構です。お待ちしております。（宮西記）

同窓会事務局 TEL&FAX:（0761）21-6330
メールアドレス：matsukou@tvk.ne.jp

「天守台」編集委員会

委員長　宮西　勉夫（高校9回）
副委員長　野田　洋子（高校12回）
黒本　儀治（中学46回）
杉永　信幸（高校18回）
池田　幸夫（高校32回）
山口　和博（高校34回）

同窓会事務局
村井　恭子（高校34回）

学校職員
酒井　隆志（高校32回）
荒納　健太郎（高校54回）

この紙は再生紙を使用しています。